

SSN 窓口担当者会議

「SSN 指導員のしおりとアクティビティ集」の活用状況Ⅱ、Ⅲ 日ごろの活動で感じていること

佐口 美智子（千葉市）

日 時 2018年8月10日・9月28日 10:00~12:30

場 所 千葉市中央コミュニティセンター（千葉市）

参加者 7名

小学校自然観察支援ネットワークは活動を初めて20年を迎えようとしています。2009年に作成した「SSN 指導員のしおりとアクティビティ集」を基に今までの活動を振り返り、問題点や成果を話し合いました。今回は二回目と三回目の会議の内容をご報告します。

私たちは参加指導員を増やしたい、そしてこの活動をずっと続けたいと願っています。しかし、参加指導員が足りなかったり、高齢化で参加がままならなかったりしています。このような状況でも活動が維持できているのは、協力者の方々の参加があるからです。

協力者の方々は指導員講習会を受講していませんが、地域などで自然に関する活動をされています。しかし、小学校で支援活動をするのは、大人や自然に対して関心が高い子どもを相手にすることとは違います。ですから自然のことに詳しい方でも学校に出向くのは尻込みをしがちです。このことに対して四街道では子どもたちのグループにサブとして付いて先輩指導員の指導方法を見てその技術を学んでもらい、また、学校支援資料を収めたファイルを作成して知識を深めてもらっている、松戸では指導員同志で互いにわからないことを聞き合うフレンドリーな雰囲気作りをしているなどの取り組みが報告されました。しかし、どこでも自然に関する知識に重点が置かれてしまい、「命を実感する観察」に重点をおいた研修時間がなかなかとれない、また協力者の指導員講習会受講につながらないとのことでした。

学校で行う観察会の意義についても話し合いました。全児童が参加するので、仲間の姿から子どもたちは学んでいるようだ、関心がなさそうな子をどう引き込み楽しませるかが指導員としての醍醐味であるなどの意見が出されました。

最後に、行政に携わるトップの方の考えが観察フィールドの運営に反映されており、小学校の支援活動にも影響が出ているとの感想が述べられました。

三回目は「SSN指導員のしおりとアクティビティ集」の活用状況や内容を再検討しました。携帯番号の記載、観察時の服装には皮膚を出さないよう一層の注意の喚起、午後からの観察の時は水筒の水の残量のチェックや補給、ヒアリやマムシなどへの対応の記載、アレルギーのある子への配慮、アクティビティの充実などが出されました。

また、会員であれば誰でも閲覧できるようにホームページ上に、「SSN指導員のしおりとアクティビティ集」を載せられないかとの意見もありました。

学校での観察会の時に参加した保護者が感動して家庭での継続観察につなげている事例や、観察会をきっかけに夏休みの自由研究に取り組み、小、中、高等学校と研究を深め大学へ推薦で入学できた子がいることも報告されました。

来年度の勉強会はこの会議で指摘された「命を実感する自然観察の方法」を学ぶ計画となりました。

「SSN 指導員のしおりとアクティビティ集」の役割の重要性を再認識した会議でした。